

故・橋岡慈観師 三回忌追善

名古屋淡文会別会



敦盛

天鼓



道成寺



2016 年

10月1日(土)

午前10時半開演 (10時開場)

於 名古屋能楽堂

(名古屋城正門前)

主催 名古屋淡交会
共催 NPO 法人名古屋能楽振興協会
後援 名古屋市 / 中日新聞社

連吟「江口」キリ

藤井千鶴子
瀬戸洋子
菊地翔子

山崎美紗子
角田尚香

能「敦盛」

平草草蓮里
敦刈男
盛刈男
生法師
能
小大鼓
山階彌右衛門
観世芳伸
浦田保浩
清沢一政
松山幸親

久田勘吉郎
山崎浩之海
寺澤拓樹
笠田祐久
高安勝久
井上松次郎
鹿取希世
久田陽春子
河村眞之介
山田義高
久田勘鷗
祖父江修一
久保信一朗
伊藤裕貴

狂言「呂蓮」

旅僧
男妻

井上松次郎
野村又三郎
今枝郁雄
鹿島俊裕
(休憩二十分)

仕舞「卒都婆小町」

小野小町
寺井榮
浦田保浩

観世清和
上田貴弘
坂口貴信

能「天鼓」

天鼓の父王伯
天鼓の霊
皇帝の勅使者
從
小大鼓
太鼓
観世芳伸
上田貴弘
上田公威
山崎浩之
笠田祐樹

弄鼓之樂

久田勘鷗
久田三津子
高安勝久
野村又三郎
竹市学
後藤孝一郎
山本哲也
鬼頭義信
坂口貴信
笠田祐樹
藤谷音彌
伊藤裕貴
寺澤拓海
(休憩十五分)

能「道成寺」

白拍子 鬼女
道成寺の住職
徒僧
徒僧
能力
能力
能
笛

瀬戸勝治
江崎正左衛門
江崎欽次郎
和田英基
鹿島俊裕
佐藤友彦
藤田六郎兵衛
久田舜一郎
河村総一郎
加藤洋輝
寺井榮

小大鼓
太鼓
観世芳伸
久田勘鷗
観世清和
浦田保浩
祖父江修一
加賀敏彦
上田貴弘
藤谷音彌
坂口貴信

山階彌右衛門
山田義高
清沢一政
松山幸親
上田公威
久保信一朗

(終了予定午後四時頃)

シテ
ワキ
フキ
オモイ
アドアイ
囃子方

後見
地謡

鐘後見

※出演者は都合により変更する場合がございますのでご了承ください。

敦盛 (あつもり)

一ノ谷の合戦で、当時十六歳の平家の公達平敦盛を討ちとった熊谷直実は、あまりの痛ましさに、無常を感じ、武士を捨て出家して蓮生と名乗ります。彼は敦盛の菩提を弔うため、再びかつての戦場、摂津国(兵庫県)一ノ谷を訪れます。すると、笛の音が聞こえ、数人の草刈男がやって来ます。その中の一人と、笛の話をしているうちに、他の男達は立ち去りますが、その男だけが居残っている。蓮生が不審に思って尋ねると、自分は敦盛の霊であることをほのめかして消え失せます。〈中入〉蓮生は、散策にやって来た須磨の浦の男に、一ノ谷の合戦、敦盛の最期について語ってもらいます。そして自分は熊谷次郎直実であり、今は出家して敦盛の菩提を弔っているのだと明かすと、感心し、回向をするようにいって去ります。蓮生が、夜もすがら念仏を唱え、その霊を弔っていると、武将姿の敦盛の亡霊が現れ、平家一門の栄枯盛衰を語り、笛を吹き、今様を謡った最後の宴を懐しんでいきます。続いて敦盛は討死の様を見せ、その敵に巡り会ったので、仇を討とうとしますが、後生を弔ってしてくれる今の蓮生法師は、もはや敵ではないと、回向をたのんで消え去ります。

天鼓 (てんこ)

昔、中国に王伯王母という夫婦がいました。妻は天から鼓が降り下り、胎内に宿る夢を見て一子を生み、その名を天鼓とつけました。その後本物の鼓が天から下り、その子供の手に入ります。それは実に美しい音を出します。その噂を伝え聞いた天子が、鼓を献上するように命じます。少年はそれを拒んで山中に逃げたが、探し出され、鼓は召し上げられ、その身は呂水に沈められてしまいます。宮中に運び込まれたその鼓は、その後、誰が打っても音を出しません。(この能はここから始まります)そこで、勅使が少年の老父のもとにつかわされ、宮中へ来て鼓を打つように命ぜられます。愛児を失った老父は、日夜悲嘆に泣いていますが、勅命を受け、自分も罰せられる覚悟で参内します。恐れかつなつかしむ心で鼓を打つと、不思議にも妙音を奏しました。この奇跡に、天子も哀れを感じ、老父に数多の宝を与えて帰させます。〈中入〉そして天鼓のために、呂水の堤で、追善の管絃講(音楽法要)を行います。すると天鼓の霊が現れ、今は恨みも忘れて手向けの舞楽を謝し、自ら供えられた鼓を打ち、楽を奏し、喜びの舞をまわって舞います。

道成寺 (どうじょうじ)

紀州道成寺では、ながらく釣鐘がなかったが、此度再興され、今日が吉日なので鐘楼に上げ、供養をすることになります。住僧は能力に、その事を命じ、故あって女人禁制である由をも同時に触れさせます。やがてそこへ、この国のかたわらに住むという一人の白拍子がやって来て、鐘を拝ませてくれと頼みます。能力は一度は断わりますが、たつての頼みに、舞を見せてくれるならと、供養の場所へ入る事を許します。白拍子は喜んで、烏帽子を借り受け、乱拍子を踏み、舞をまいますが、人々が寝入った隙を伺って、鐘を落とし、自分はその中へ消えます。〈中入〉物すごい音と地響きに驚いた能力は、鐘楼に来て鐘の落ちた事を知り、住職に報告します。住職は、他の僧侶達に、昔、まなごの莊司の娘が、一人の山伏を恋したが、男は、娘を捨てて、この寺に逃げ込み鐘の中に隠れた。そのあとを追った娘は、蛇体となって日高川を渡り、その鐘に巻きついて、中の山伏を取り殺したという話を物語ります。そして、先刻の白拍子も昔の女の怨霊であろうと、他の僧侶と共に祈ります。すると鐘は上がって、中から蛇体の鬼女が姿を現します。僧達の必死の祈禱に、蛇は自身の吐く炎に身を焼き、日高川の深淵に姿を沈めます。

能楽手帖 権藤芳一より

■前売チケット

S席(正面) 8,000円
自由席 6,500円
学生 3,000円

※当日券は、500円増。
二部は、入場無料。
払い戻しは致しかねます。

■チケットのお求め・お問い合わせは

・電話申込 052-734-6192 (久田事務所)
・FAX申込 052-705-1585 (久田事務所)
お名前・ご住所・電話番号・チケット枚数をお書きください。
・WEB申込 <http://www.hisadakan-oh.com/>
・名古屋能楽堂 (TEL 052-231-0088)
受付完了後、チケットを送付します。
送付の際に振込用紙を同封します。
お手数ですが、料金をお振込みください。

協賛

株式会社安藤・間 ワシントンホテル株式会社 ビックカメラ名古屋駅西店
学校法人秋田学園 岩波建設株式会社 本州建設株式会社 ミソノサービス株式会社